

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400134		
法人名	医療法人 鴻仁会		
事業所名	認知症対応型共同対応型生活介護 グループホーム 光風園		
所在地	北海道函館市宮前町11番8号		
自己評価作成日	平成26年11月10日	評価結果市町村受理日	平成27年2月9日

今年度は社会福祉主事や管理者研修・実践者研修・認知症介護リーダー研修受講等職員のスキルアップに力を入れています。又、外部の勉強会や研修等にも毎月参加し知識の向上に努めています。
町内会活動にも入居者様と共に参加されゴミ拾いや花壇の清掃に参加されています。職員は毎月ボランティアで町内会で行っている夜間防犯パトロールに参加したりお祭りのお手伝いに参加しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [/index.php?action_kouhvou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400134](http://index.php?action_kouhvou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400134)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成26年12月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム光風園は開設から4年を経過し、母体法人は病院経営をはじめ、函館市内で通所リハビリテーションや有料老人ホームなど多岐にわたる福祉事業を展開しており、医療と事業所の実践経験を活かし、地域におけるケアの拠点として大きな役割を担っています。職員は地域の方や警察O日と協力して夜間パトロールに参加し、高齢化が進む地域の中で若い力を発揮しています。また、職員は自己研鑽を積むため休暇を利用して研修会に出席し、全職員で共有できるよう、研修内容を報告する機会を確保しています。また、地域との関わりは深く、花壇づくりやクリーン作戦に参加したり、地域の方々を招いて事業所の屋上花火大会見物を行い様々な食べ物屋台やヨーヨー釣りなど行き双方向的な交流が行われています。利用者は充実した医療体制の中質の高いケアサービスを受けながら地域の中でその人らしい暮らしを継続しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との連携というも光風園の理念に盛り込み職員間で共有し地域密着型施設として実践につなげている。	地域と事業所の関係性を重視した理念を作り、定期的に会議を開催して全職員で話し合い、具体的なケア目標を定め実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会で行っている花壇の手入れやゴミ拾いには入居者と共に参加している。又、月に1回19時から20時まで町内会の方と共にボランティアで夜間パトロールに参加している。	利用者は花壇の手入れやクリーン作戦など町内行事に職員と一緒に参加しています。七夕には利用者が手作りしたクッキーを来訪した子供たちに言葉を交わしながら手渡して積極的に交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で地域の方々に参加して頂いたり、行事や避難訓練に参加して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行い地域の方や有識者からの意見を頂き、利用者のサービスにつなげる様にしている。	2カ月毎に包括や町内・家族が出席して併設の小規模多機能ホームと合同で開催し、行事・外部評価結果報告・利用者の日常を映像で紹介して、出席者から質問や意見・要望を受け活発な意見交換が行われ、表出した意見はサービス向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者を招致したり、議事録を送付したりし、連絡を密に行っている。又、サービスや保険関係で不明な点は市の担当者に直接聞き指示を仰いでいる。	市担当者とは困難事例や書類提出に関する相談をしたり、定期的にケースワーカーの訪問もあり、内部研修では講師をお願いするなど日頃から連携を深め協力体制を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修や勉強会に積極的に参加し身体拘束にならない為のケアの方法を学んでいる。又、身体拘束防止委員会を設立し、話し合っている。	職員は積極的に研修に参加し、パンフレットやレポートを活用してユニット会議で報告をし、全職員で話し合い拘束をしないケアの徹底理解を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については勉強会で学ぶ機会を作り、防止についてのマニュアルを作成し職員に周知している。御家族にも協力を仰ぎケアについてのアンケートを郵送して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となる方がいない。日常生活自立支援事業や成年後見制度については、資料等で学んでいる。又、運営推進会議内で地域包括支援センターに協力して頂き成年後見制度についての講義をして頂き職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて、ご家族の不安を和らげるように丁寧な説明を心掛け、質問や疑問を引き出すようにしている。又、それに対し再度理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置している。又、本体施設で入居者のご家族に苦情や要望等のアンケートを発送しそれらの苦情・要望を月に1回あるユニット会議にて話し合っている。運営推進会議でも公表している。	家族にはアンケート調査を行ったり、面会時や来訪時にどんな些細な事でも気軽に表出できる雰囲気づくりや声掛けに配慮し、表出した意見や要望は全職員で話し合い運営に反映しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回必ずユニット会議を開催し職員が自由に意見や提案を表せる機会を設け反映させている。	代表者や管理者との面談を行い表出した課題は業務改善委員会で検討され、毎月開催しているグループホームと小規模多機能ホーム合同会議で意見やアイデアを頂き運営に反映しています。今までに薬の管理方法を効率化することで事故防止に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には個々に入居者担当や委員会になってもらい、責任をもって仕事に従事している。又、スキルアップ制度として本体施設でも職員の能力開発に積極的に取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一か月に一度法人全体での勉強会を行っている。研修には積極的に参加を促している。外部の研修にも参加し専門性を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設での勉強会に参加したり、自施設で行う行事や避難訓練に参加して頂いたりして交流を深め他施設での取り組み等を見てサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約に至るまでに見学等を通じて情報収集し環境変化によるダメージを最小限にしている。又、アセスメント・モニタリングを行い不安や要望に俊敏に対応できるように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に入居希望者やご家族と面談を行い不安や要望を解消できるように話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と計画作成担当者が情報の共有を密に図りアセスメント等で把握しそれに基づき実践している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや掃除に参加して頂いたり、昼食時共に食事をしたりしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を密に行い近状を伝えたり、家族から情報を頂いてケアプランに反映させる等し共に支えていく様にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の面会時には、落ち着いて話が出る様に配慮している。	馴染みの出張理容・美容院を利用し続けたり、住んでいた地域のお祭りを見に出かけ、家族と一緒に過ごすために毎月外泊をする利用者もおり、これまでの関係が途切れないように支援しています。また、家族や友人が来訪した時はゆっくり話ができるように配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同での行事やレク等にお誘いし日頃から関係が円滑になるように支援している。又、お茶やおやつ時には、職員が間に入り会話の橋渡しをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談を受けたり、場合によっては他のサービスを紹介したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みの家具等をなるべく使用して頂き今まで本人が暮らしていた環境に近づく様にしている。又、意思表示が困難な方には、家族からの情報や生活歴や性格から模索し本人主体となれる関わりをもてる様にしている。	日々のコミュニケーションを大切にし、言葉や表情・仕草から推し測ったり、さり気なく確認しています。意思疎通が困難な時は生活歴や家族・知人からの情報を得て本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前にケアマネや本人・家族から情報を出来る限り引き出すようにしています。入居した後も親戚の方の面会時や友人がいらした時は情報を聞き出し職員間で共有する様にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録をこまめにつけ一日の過ごし方の分析を行っている。又、リハビリやラジオ体操を毎日行いADLの現状維持に努めている。アセスメント等も行い入居者には出来る事はなるべく御自分でして頂くようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のユニット会議やサービス担当者会議にて今後の課題やケアのあり方についての話し合いをしている。	申し送りノートを利用して日常的にどんな些細な情報でも収集して全職員で共有し、申し送り時やユニット会議で繰り返し話し合い、アイデアや意見を交換し本人や家族の要望を取り入れ、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を毎日記録し情報を共有している。又、モニタリングの際に介護記録を参照し、見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族の都合上、利用者の希望する用件、かかりつけ医の診察など、困難な場合、事業所がかわって柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会で実施している草取りやゴミ拾いに参加している。又、町内会で行われる行事等に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人とご家族の希望を考慮し決定している。又、毎週訪問診察や隔週での定期受診を行っている。	殆どの利用者は法人医師をかかりつけ医としており、毎週の往診と看護師による健康管理が行われ、専門科受診は職員が同行して家族に結果報告をし24時間体制で適切な医療が受けられるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週協力医院からの看護師が来所され健康管理指導を受けている。特変時や処置が必要な場合も連携医院より看護師が来所し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は病院との連携を図り早期に退院できるように話し合いを行っている。又、入院が発生した場合、既往歴や薬剤情報はいったフェースシートを病院に提出している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方は事前に本人・ご家族の意向を聞き対応している。又、協力医院とも情報の共有を密に行っている。	重度化や終末期に関する指針を作成し、利用開始時に本人と家族に十分に説明し同意書を交わし、医療機関との連携体制も構築されています。	事業所の対応力を把握するためにも、話し合いを重ねて支援出来得ることを明確にし、対応方針の共有を図る取り組みを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成しそれに基づき対応している。急変時は協力医院の看護師や院長に連絡行い対応できる体制になっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定・日中想定で消防立会いのもと避難訓練を実施している。又、地域の方にも避難訓練の際は協力して頂いている。	年2回消防署の指導のもと昼・夜を想定した避難訓練を地域の方の協力を得て実施しています。マニュアルや連絡網・備蓄品も整備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の大先輩として尊敬した言葉遣いや対応をする様に心掛けている。又、自尊心が傷つけないよう働きかけている。	年長者として敬意を払い言葉遣いや接遇には十分に配慮し、お風呂やトイレなどの羞恥心を伴う介護時はプライバシーを損ねない様に声のトーンやさり気ないケアに心掛け慎重に対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を会話の中から引き出せる様にコミュニケーション時間を多くとっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーソンセンタードケアの信念のもと職員一人一人が時間に追われずに入居者のペースに合わせ、やり過ぎない様に介助する様心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る事は声掛けを行い、自分で髪をとかしたり、鬚を剃ってもらったり、洋服を選んで頂いたりしている。又、支援が必要な方に対しては、毎日同じ洋服にならない様に介助しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養管理の基、献立が作成されており、一人一人のニーズに合わせ普通食、ソフト食に分別し誤嚥のない様支援している。食事準備は職員と共に入居者にも参加して頂いています。	管理栄養士が献立を作成し、ご飯とみそ汁は事業所で作り調理の下準備は職員と一緒にしています。食事イベントでは焼きそばやチャンチャン焼きを作り、おやつのかレーブや誕生日のケーキも手作りし皆で食べています。また、ホテルでバイキングも楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー表を基に配食されている為、栄養のバランスはとれている。水分については毎日合計をだし、不足しない様に飲用して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後ケアを行っている。入れ歯の方に対しては、ポリデン洗浄を行い本人のできない所は介助しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はオムツ使用者はいなくトイレ誘導にて排泄されています。又、排泄チェック表を使用し個々に排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っています。	トイレでの排泄を大切に、排泄パターンの把握や生活リズムに沿って声掛け・誘導をして排泄の自立に向けた支援を行っています。利用者によって夜間は睡眠を第一に考えて紙パンツを使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分の摂取量や運動量をチェックし予防している。毎朝牛乳をとって頂いたり、オリゴ糖を使用し便秘対策しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前・午後と時間に関係なくご自身のペースで入浴頂いている。介助の必要な方は職員が二名介助にて行っている。	週2回の入浴を基本としていますが利用者の希望や習慣に合わせて臨機応変に対応し、必要に応じて足浴や清拭を行ない清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めておらず個々の眠気に応じ就寝介助行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報を個人記録ファイルに添付し個別に薬の効用、副作用、用法、用量についていつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からの情報や会話の中で楽しみごと等の情報を得て日常の中で出来るように支援しています。他入居者との交流を深める為、レクリエーションの参加を積極的に促しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、その日の体調や天候によって職員付添いにて戸外に散歩したり、買い物、ドライブと季節ごとに色々な所へ外出している。	気候の良い時は事業所周辺を散歩したり、系列事業所共有の花壇や畑の手入れをし、実りの時期には収穫を楽しんでいます。毎月遠出のドライブを企画して季節毎に花見や紅葉狩り・軽食をして気分転換やストレスの発散をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は家族と話し合い本人に所持して頂いたり、預かったりしている。使用時は本人と話し合いお手伝いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話をかけたらかかって来た時は、伝えて話をして頂けるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったりと季節感や温かみを出すようにし、照明も柔らかな物を用いている。	共用空間は広々としてソファやテーブルをゆったりと配置し、利用者は思い思いの場所でゆったりと寛ぎ、気になる音や光がなく湿度も適度に管理されています。居間や廊下には職員が作った綺麗な切り絵がたくさん飾られ、温かさや華やかさを演出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で過ごせるよう、又交流の為、座席の配慮に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設利用開始前に使われていた物をなるべく持参して頂いています。	使い慣れたタンスや仏壇・思い出の品々を持ち込み温かい雰囲気を出し、すっきりと整理整頓された居室は清潔が保たれ居心地よく過ごせるように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLの状態に合わせて手すりを設置したりシルバーカーや杖を使用したりなるべく自立した生活を送って頂いている。又、ADL維持のため毎日ラジオ体操やリハビリに参加して頂いています。		